氏名（生年月日）	東川俊寛（ひがしかわとしひろ）（昭和54年3月5日）
本籍	大阪府
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	甲 第４６２号
学位授与の日付	平成２７年３月２６日
学位授与の要件	学位規則第４条第１項該当
学位論文題目	Blood pressure and disability-free survival among community-dwelling diabetic and non-diabetic elderly patients receiving antihypertensive treatment （降圧薬治療中の地域在住糖尿病・非糖尿病高齢者における血圧と生活機能との関係）
論文審査委員	主査 有沢富康 副査 小林淳二 森河裕子

論文審査結果の要旨

高齢者では糖尿病や高血圧を有する者が多く，また両者が合することもめずらしくはない。これらの合併は，心血管系イベントの発症リスクを一層増加させることも明らかにされており，それぞれの薬物治療によるコントロールは臨牀上重要な課題である。一方で，高血圧に関しては，過度の血圧低下はイベント発症の抑制にはつながらず，むしろ副作用を増加させることも明らかとなってきている。さらには，多くの研究は心血管系イベントの発症をエンドポイントとしているが，日常の社会生活では高齢者が自立した生活をおくれるか否かは重要な問題であるが，そこにエンドポイントを設定した検討は少ない。そこで，本研究は，いまだ明らかにされていない，自立生活が可能であるための糖尿病を合併した高血圧の治療目標を明らかにすることを目的とし計画されたものである。

地域住民を対象に，高血圧治療を受けているものを糖尿病を有するものと有さないものに分類し４年間追跡，要介護支援または死亡をエンドポイントとしてそのイベントに対するリスクが有意に高くなる拡張期血圧または収縮期血圧を明らかにすることで，治療目標を推定しようとするものである。結果として，ある時点の収縮期血圧が 160 mmHg 以上のものでは，多変量解析により有意にイベント発症のリスクが増加することが明らかとなり，糖尿病を有する高齢者高血圧の治療は収縮期血圧が 160 mmHg 未満にコントロールすることが望ましいと結論付けている。

本研究は，case-control study であるポイントがあいまいであることや，対象数が解析に耐えうるものであるか，エンドポイントとして要介護支援という主観的バイアスのかかるものが妥当であるかなど，様々な limitation は存在するものの，高齢化社会を迎え，今後増加するであろう糖尿病を合併した高血圧の治療状況によって，その後の要介護支

援・死亡のリスクが異なることを明らかにしたことで，日常診療における高血圧治療にひとつの目標を与える有益なものである。さらには，本研究の結果は，治療介入による前向き試験によりさらに降圧目標値を明確にするための土台となるなど，今後の研究の発展にもつながるものであり，臨牀上極めて有意義なものであると考えられる。

以上により，本論文は博士(医学)の学位を授与するに値するものと認められる。

（主論文公表誌）

Geriatrics and Gerontology International, 2015